☆青空の子どもたち☆　　横浜市立中丸小学校

# 学校だより　１１月号　令和５年１０月２７日

## 「嬉しいな」の言葉を添えて

副校長　西口　公恵

木々も色づき始め、秋の足音が近づいています。子どもたちは今、10月28日(土)の中丸オリンピックに向けて一生懸命に練習に励んでいます。中丸オリンピックを待ちきれない、弾むような子どもたちの声が秋空に響き渡っています。

さて、中丸小では毎日、給食当番が職員室前の廊下を通り、教室に給食を運んでいます。ある日のこと、子どもたちの列が過ぎ去り、静かになった頃です。たまたま私が廊下に出たら、高学年の二人の男子児童が、廊下にこぼれてしまった給食を一生懸命に拭いていました。そして、こんなやり取りをしていたのです。

Aさん:「〇〇さん、そこを拭いてくれると嬉しいな。」
Bさん:「オッケイ、いいよ！」
Aさん:「ありがとうね。」

私は、たったこれだけの二人の会話に何とも言えない温かい気持ちになりました。そして思わず二人に、「頼み方がすごくいいね。拭いてくれると嬉しいな、って言われたら気持ちがいいよね。」と声を掛けました。二人はにっこりと顔を合わせ、最後まできれいに拭き終わり、爽やかに教室に戻っていきました。「そこを拭いてね。」で終わりそうなところを、その子は「嬉しいな。」の一言を添えてお願いしたのです。そう言われた相手の子は、気持ちよく仕事を引き受けられたことでしょう。「オッケイ、いいよ！」の言葉には、「もちろんさ。」といつも以上に張り切る気持ちも含まれていたのではないかと思います。人に何かを頼むとき、協力して物事を進めなければならないとき、誰かに声をかけるとき、言葉ひとつで受け取る側の気持ちは変わります。大変なことも大変だと感じなかったり、時間がかかることもスムースに、そして気持ちよく進められたりします。「生きる力」を育む中で、人とかかわる力、人に伝える力、物事をおおらかに受け止め人とつながる力はとても大切です。この二人のやり取りを見て、可愛らしい言葉を添えて、人とつながっている中丸小の子どもたちを誇らしく思いました。同時に、忙しさにかまけてついつい言葉足らずになっていないか、相手の気持ちを考えて声を掛けているかと、思わず自分自身のことを振り返りました。

明日はいよいよ中丸オリンピックです。今年度は競技内容も増え、保護者の皆さまや地域の皆さまにも人数制限等もなく、多くの方にご参観いただきます。子どもたちは、これまで練習してきた成果を存分に出し切り、力いっぱい表現したいと張り切っています。明日もまた、高学年の児童が下学年の児童に声を掛けたり、友だち同士互いに応援し合ったりと、中丸小の子どもたちの優しい言葉がいたるところで溢れていることと思います。保護者・地域の皆さまの温かい応援をよろしくお願い申し上げます。